NPO

中帰連平和記念館

CHUKIREN HEIWAKINENKAN

「平和のための博物館ネットワーク」 全国交流会 開催

記念館も参加している「平和のための博物館ネットワーク」の全国交流会が、昨年 10 月 26、27 日に当記念館の担当で、埼玉県嵐山町の「国立女性教育会館」で開催されました。この交流会は毎年開催され、昨年は「ひめゆり平和祈念資料館」で開かれました。

交流会には全国から 46 人が参加し 14 団体から報告がありました。冒頭、宮原大輔さん(ピースあいち)から事務局報告があり、続いて現地挨拶として当館の松村髙夫理事長の挨拶がありました。その後、各団体約 25 分の割り当てで各館報告に移りました。

初日の各館報告の後「懇親会」を開き、参加者の皆さんと交流しました。「立命館大学国際平和ミューッジアム」名誉館長の安斎育郎さんも 26 日夜に福島から駆けつけて下さり、得意の「手品」の披露もありました。安斎さんは 3・11 以来、毎月 2 回、今も福島へ放射能測定のボランティアに通い続け今回で 62 回目とのことでした。

二日目のトップはその「国際平和博物館会議」のジェネラルマネージャーでもある安斎さんから、今年9月に京都と広島で開かれる同会議(3年に1度世界各地で開催)の案内と参加要請がありました。二日目の「記念講演」には武蔵大学教授の永田浩三さん(元 NHK プロデューサー)に、『戦争と平和をどう伝えるか』 のタイトルで講演頂きました。

二日目の午後は希望者による「フィールドワーク」で、会場近くの「原爆の図丸木美術館」 見学の後、当館に来館戴きました。来年の「全国交流会」は「国際平和博物館会議」とドッキ ングし、立命館大学国際平和ミュージアムの担当で、9月に開催することになりました。

また安斎さんから「あいちトリエンナーレ 2019」の「表現の不自由展」について、『表現の不自由』に対する「行政の介入と市民脅迫的言辞に関する声明」の提案があり全会一致で採択

されました。次頁は報告団体と報告テーマです。



【「国立女性教育会館」埼玉県嵐山町】

目 次

- ・「平和のための博物館
 - ネットワーク全国交流会」 ・・・・1
- ・第22回「中帰連に学ぶ会」 ……2
- ・「太原戦犯管理所跡」の保存について…3
- ・韓国で「中帰連」紹介の本発行 ……3
- ・連載 第20回「記念館資料室から」・・4
- 北海道旭川工業高校

「平和の朝顔〜軍国主義教育の罪〜」

全映協グランプリ 2019 最優秀賞受賞・・5

・マンガ ………6

★「立命館国際平和ミュージアム」 今年9月の「第10回国際平和博物館会議」

をどう成功させるか。

★「満蒙開拓平和記念館」

最近の「満蒙開拓平和記念館」の活動から。

★ 栗山究

近年の日本の博物館政策の変容をめぐって

★「わだつみのこえ記念館」

「平和のための博物館における 15 年戦争 関係の最近の展示。

★「中帰連平和記念館」

中帰連とその体験について。

★「市民ネット」

平和のため博物館国際ネッオトワークと市 民ネットの役割。

★「女たちの戦争と平和資料館(wam)」 表現の不自由・その後と慰安婦問題

★「ピースあいち」

2019 年度『ピースあいち沖縄展』報告。

★「原爆の図・丸木美術館」

「原爆の図」を編みなおす~アーサー・ビ ナ~ド新作紙芝居「ちっちゃいこえ」。

★「静岡平和資料センター」

「静岡平和資料センター」の報告。

★「山梨平和ミュージアム」

企画展 3・1 独立運動 100 年、日韓問題

★「国際平和博物館会議」(INMP)」

「第 10 回国際平和博物館会議」の概要および参加の呼びかけ。

★「ひめゆり平和祈念博物館」

「ひめゆり平和祈念博物館」のリニューアルと最近の取り組みについて。

★「第五福竜丸展示館」

第五福竜丸のリニューアルと最近の取り組みについて考える。



【「中帰連平和記念館」で】

第22回「中帰連に学ぶ会」 『哲学徒と哲学者の戦争体験 〜絵鳩毅と武内芳郎』

首都大学東京 • 石川求教授

竹内芳郎さん (1924-2016) は、戦後の日本にサルトルの哲学を紹介した人としてまず知られています。けれども彼の活動は、たんなる哲学研究にとどまらず、知識人サルトルがその典型だったように、同時代の日本に向けて発言し警鐘を鳴らす鋭い論客として、広い意味での思想界にも及んでいます。そして後半生の約 30 年間は「討論塾」という個人サークルを創設し、いにしえのソクラテスさながら、若者たちとの対話に心血を注ぎました。幸いその塾は遺志が受け継がれ、今も継続しています。

竹内さんと中帰連の絵鳩毅 (1913-2015) さんは、その経歴も、戦後における思想信条 も驚くほどよく似ています。絵鳩さんは戦前、 東大の倫理学科で新任の和辻哲郎に教えを受 けました。竹内さんは入学こそ東大の法学部 でしたが、戦役から帰ると文学部の倫理学科 に移り、(定年間近だった) その和辻を最初の指 導教官にしました。

大事な点は、二人とも中国に従軍していることです。竹内さんは告白しています。中国でいちばん怖かったのは、初年兵教育の一つとして、捕虜を生きたまま銃剣で突き殺すことを強制されはせぬかということだったと。幸いにしてそれをせずに敗戦となりましたが、まさにこの〝教育〟という名の虐殺を、別の部隊で絵鳩さんは命じていたわけです。この加害事実を生涯にわたって私たちに証言し続けたのでした。

そして二人は、日本の天皇制が戦争と一体であることを公に告発もしました。竹内さんは「天皇教」という言葉をタイトルに使った批判的著作を複数残していますし、絵鳩さんは、昭和天皇が死去する前後における日本のあの萎縮した状況にあって、天皇の戦争責任を改めて追及する中帰連の声明を、中心メンバーの一人として作成しました。二人の視線は、戦後においても天皇制を哲学的に擁護した(かつての恩師)和辻哲郎にも向けられて



【「中帰連に学ぶ会」記念館】

いました。

このようにあらゆる面で、そしてよい意味で似たもの同士だった二人ですが、直接の出会いはありませんでした。かつての塾生から伺ったのですが、生前、竹内さんの口から中帰連の話題が出たことは一度もなかったそうです。まことにもって残念でなりません。

日本の反戦平和運動は不幸にも分断されています。横に横に、少しでも隣に隣に、共闘の輪をつなげていく必要があると僭越ながら痛感します。

「太原戦犯管理所跡地」の保存決定について

戦後、中帰連の皆さんは遼寧省の「撫順戦犯管理所」と、山西省の「太原戦犯管理所」に収容されました。撫順の969人に対し、太原は140人だったため、どうしても太原組は陰になりがちですが、言うまでもなく太原の皆さんの体験と証言も貴重です。

大連理工大学の教員をしている石田隆至理事の報告によれば、博物館として復元されている撫順戦犯管理所と違い、「太原戦犯管理所の施設はその後、別の目的に転用され、最近では市街地の開発の波に飲まれ、わずかに残っている建物さえ取り壊しの危機にあり、建物は老朽化するに任せてある状況」との事でした。

そこで、石田理事から理事会に対し、中国 政府に復元を働きかけようと提案があり、石 田理事が具体的に働きかけていました。

また、石田理事と明治学院大学教員の張宏 波会員のご手配で、昨年 11 月に来日した王 毅外交部長と松村理事長との面会が実現し、 松村理事長から王毅国務委員・外交部長に直接「太原戦犯管理所の復元」を要請しました。

これらの取り組みの結果として、年明け早々に石田理事から「中国側から提案が了解されて復元が決定され、具体的に動き出すとの回答があった」と嬉しい報告が届きました。 亡くなられた太原組戦犯の皆さんも、天国で喜んでおられることと思います。

今後、太原戦犯管理所跡地が撫順戦犯管理 所のように復元され、中帰連の歴史なども展 示される国際平和の原点となることを期待 し、記念館からも資料提供など出来る協力を していきたいと思います。



【王毅外交部長に要請する松村高夫理事長「中 日人的・文化交流レセプション」2019.11.25】

韓国で「中帰連」紹介の本発行

金 孝淳

中国帰還者連絡会をテーマにした拙著『私は戦争犯罪者です』が韓国で今年1月中旬、西海文集という出版社から出版されました。副題は<日本人戦犯を改造した撫順の奇跡>です。450頁余りの少し分厚い本です。

苦難と波瀾に満ちたいばらの道を人生の最後まで歩んだ中帰連の人々の人生行路と彼らのすさまじい証言活動は、韓国社会ではごく断片的にしか知られていませんでした。この本はおそらく中帰連にまつわるさまざまな事柄を体系的に叙述した初めての試みと韓国の出版界では位置づけられるでしょう。

私がこの本の内容に深入りする必要は全然ないように思われます。 中帰連平和記念館会報を読むほどの会員なら皆さん私よりもずっと詳しいはずだからです。大体の内容を理解していただくために目次を示します。「まえがき」と「あとがき」は少し長めに書きました。普通の韓国人は中帰連のことについて

ほぼ無知の状態なのでいろんなエピソードを 交えて分かりやすく丁寧に説明しなければな らなかったからです。本文は3部に分かれて います。第一部「戦犯改造—殺人鬼から善人 へ」、第二部「裁判そして寛大さ——人も処 刑しない」、第三部「撫順の奇跡—二度と侵 略戦争に銃を取らない」となっています。元 戦犯たちが帰国後中帰連を結成して侵略戦争 であったことを否定する反動勢力と必死に闘 ってきた壮絶な過程は第三部で詳細に触れま した。巻末には参考文献と人名索引がついて います。

拙著に対する韓国のマスコミの反応は私の 予想をはるかに超えています。韓国人には直 接的なつながりのないテーマなのでマスコミ の関心はあまり高くなかろうと予想したので すが中央の全国紙は一紙を除いて揃って書評 欄でかなり大きく扱い、好意的に紹介してく れました。一部の関連記事のタイトルだけを 紹介します.

京郷新聞 中国の日本戦犯改造政策「撫順の奇跡」 // ハンギョレ新聞 殺人鬼を善き証言者に変えた「撫順の奇跡」 // 中央日報 日本軍捕虜優遇に対し戦後恩返し // 韓国日報 虐殺犯した日本戦犯たちは如何に平和主義者になったのか // ソウル新聞

戦犯たちの心を動かした「撫順の奇跡」// 聯合ニュース 日本戦犯は如何に悔い改め て新しい人間として生まれ変わったのか //

Pressian (オンライン新聞) 日本戦犯が良心を取り戻した撫順の赦し私が最初に中帰連のことにつよく引かれたのは 2010 年です。日本による朝鮮の強制併合 100 周年を迎えた節目の年に北海道の旭川に隣接した東川町の共同墓地で出逢った中国人殉難烈士慰霊碑に

は当地の有力者た地域の 大ち域と共に中帰連が刻ま中保 では、ではいいは、 ではいいは、 でいいは、 でいいないは、 でいいは、 でいいないは、 でいいは、 でいいな、 でいいは、 でいは、 でいいは、 でいいは、 でいいは、 でいいは、 でいは、 でいは、 でいいは、 でいは、 でい



【『私は戦争犯罪者です』】

【金孝淳(キム・ヒョンスン)さんは『ハンギョレ新聞』の元編集長で、2017 年 3 月に来館下さいました。これで「ハングル、中国語、ドイツ語、英語」の4カ国語の中帰連紹介の本が揃いました。(事務局)】

連載 記念館資料室から

第20回 中帰連の責任認識が持つ先駆性

石田隆至(「中帰連に学ぶ会」事務局)

『前へ前へ』第 10 号は 1958 年 3 月 25 日の発行です。

今号では冒頭に、劉連仁さんが、戦後 13 年を経て北海道の山中から現れたことが 4 ページにわたって紹介されています。戦時中に中国から強制連行され、奴隷的に使役された約 4 万人の被害者の一人です。企業による虐待に耐えかねて逃げ出し、戦争が終わったことも知らないままでした。当時首相だった岸大臣でしたが、劉さんを被強制連行者と認めず、「札幌入管は『不法残留者』容疑として召喚さえし」ました。中帰連が帰国した段階での日本政府の戦争認識が、反省とは程遠かったことを物語ります。

これに対し中帰連は、「劉氏を強制して日本に送り十数年の死に至る苦しみと、家族、同胞につきせぬ悲しみを与えたのは他ならぬ私達自身であるから」という認識の下、日本政府の責任を問うと同時に、劉さんへの支援活動を北海道支部だけでなく、全国を挙げて展開していきます。農民だった劉さんが連れ去られた中国の山東省は、日本軍が強制連行を実施した地でした。中帰連会員には250名以上の元59師団将兵がいますが、彼らは連行作戦を実際に行った当事者でした。劉接活動に、中帰連はこの後も尽力していきます。

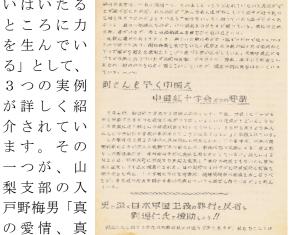
なお、現在の観点から興味深いのは、当時 劉さんが日本政府に発した抗議声明の中で、 「自分は兵隊でもないのに国際法に違反して 不法に捕虜にされた。日本政府はすみやかに 中国政府に実情を知らせると共に、14 年間 にうけた物質的、精神的損害の補償をおこな うべきだ」と訴えたことです。劉さんを含め た強制連行被害者は、1990 年代以降に戦後 補償裁判を提起しましたが、日本の最高裁は 日本政府や加害企業の法的責任を認めず、敗 訴しました。裁判では、被連行者は「労働者」 と位置づけられ、未払い賃金の支払いや被雇 用者の安全配慮義務違反などが争点となりま した。しかし、劉さんの声明やその経験を考 えるとき、「労働者」とみなすのは事実に反 します。訴えられたのは強制連行、虐待・虐 殺といった戦争犯罪であるという根本を日本 社会が受け止められていないが故に、いつま でも解決に至らないといえます。これは韓国 の「徴用工」判決以降の近年の問題と同根で

その意味で、今号の記事の中で、劉さんの 存在を「もともと日本へ連行してはならない ものを、連行してきたのであるから」と記さ れているのは重要です。「労働者」だったか ら、強制でも戦争犯罪でもないという認識と は一線を画しています。現在の日本政府や社 会にどのような責任意識が求められるのかを 明確に示しています。

後半は 20 ページにわたり、各支部からの 報告が並びます。これは、「会員一人一人の 生活経験やその中で得た教訓、感想は直ちに 他の仲間に対して大きな学習となり援助とな るもの」という発想からです。

帰国から2年近く経ち、都市部では生活が 安定してきた会員もいましたが、今回紹介さ れているのは、熊本、鹿児島、静岡、山口、 新潟、山陰、大阪、岐阜、奈良、山梨とほと んどが地方支部で、依然として経済苦が続い ていました。その中で、「会員相互の援け合

いはいたる ところに力 を生んでい る」として、 3 つの実例 が詳しく紹 介されてい ます。その 一つが、山 梨支部の入 戸野梅男「真



の団結とは」です。【会報「前へ前へ」10号】

入戸野は前年末に引揚者疎開住宅に管理人と して入居しました。そこには雨宮健治、広瀬 茂治という二人の支部会員も暮らしていまし た。「引揚者あるいは戦災者、生活保護を受 けている者」など複雑な背景を持った人々が 暮らしていて、「ちょっと頭が痛い」状況だ ったそうです。そこで、三人が朝夕集まって 相談や援助をし合いながら乗り越えてきたそ うです。食事の持ち寄りなどもしていました が、肝心の生活苦はなかなか改善しません。

「私たちは毎日三人で種々のことを話し合 う中で、結局最後には『この生活苦を如何に したら切り抜くことが出来るか』である。如 何せん経済力(生活能力)がなく、つまり金 銭に支配を受ける現実の生活の中ではどうす ることもできない。何か月日がたつにつれて 生活が少しずつでも向上するなら良いけれ ど、反対に次第次第に追いつめられてゆく。 このような実情の中では是非必要なことは団 結より途はないと思う。私たち三人が本当に 親しく日常生活を送りまた助け合っているよ うに、我々の会が会員全部が思想的団結が必 要であると思う」。苦しい時にこそ相互援助 が必要だという形で撫順での経験が活かされ ています。その実践の一つとして、中連金庫 や中連販売部が運用されていく様子は、次回 以降に御紹介したいと思います。

北海道旭川工業高校制作

『平和の朝顔~軍国主義教育の罪~』が 「全映協グランプリ2019」最優秀賞を受賞」!

「受け継ぐ会」北海道支部 鳴海良司 (記念館会員)

北海道旭川工業高校放送局が制作したD VD『平和の朝顔~軍国主義教育の罪~』が、 この度「全映協グランプリ 2019」学生部門 で最優秀賞の文部科学大臣賞を受賞しまし た。

11月14日に東京で開催された表彰式に、 制作に携わった笹木碧君(3年)と顧問の山 本永教諭が出席しました。今年3月まで同校 で放送局顧問として指導に当たった前田秀明 先生 (現在札幌琴似工業高校教諭) から、喜 びの連絡がありました。

制作されたDVDは、かつての日中戦争

で中国に渡った日本軍人たち約千名が、シベリア抑留のあと 1950 年から 56 年まで撫順戦犯管理所に収監され、当時の中国政府の寛大な人道主義政策と再教育により、「鬼」から人間の心を取り戻し、1 人の死刑、無期懲役もなく日本に帰国した、加害者の視点から戦争を捕えたものです。

伊東秀子さん(戦犯・上坪鉄一さんの娘、 札幌在住)、撫順の生まれ育ちの淀川徳さん、 (旭川日中顧問)、鳴海良司さん(旭川日中 会長)へのインタビューや、2019 年 1 月の 旭川日中友好協会主催の撫順の「平和の朝顔」 写真展会場での高校生たちと中国留学生との 座談会なども収録されており、高校生たちが 真剣にかつての侵略戦争を見つめた素晴らし 作品になっています。

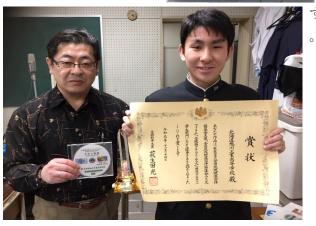
作品は今年 6 月に「北海道映像コンテスト 2019」で最優秀賞を受賞し、そして今回上位大会の「全映協グランプリ 2019」でも最優秀賞に輝いたものです。

【この「平和の朝顔」は、1956 年帰国したある戦犯が、管理所職員から「帰国したら幸せに暮らし

てください」と朝顔の 種を手渡された話を、

「撫順の奇蹟を受け継ぐ会九州支部が『赦しの花』の絵本を作り、日本各地で不戦の誓として多くの人たちによって広められたものです。 【事務局】





【山本永教諭と笹木碧君】

「新井資料」整理終了

小川原浩之

中帰連や『季刊中帰連』に深く関わった写真家新井利男さんのご遺族から NPO 中帰連平和記念館へ寄贈された写真、ネガ、インタビューカセットテープ、取材メモなどの保存、整理、デジタル化を行なうため「新井ワーキンググループ」で作業を行ないました。

メンバーは荒川、飯田、小川原、田中、中川、橋本、平山で毎月1回記念館で作業を行ない、2017年9月に開始し、この1月で終了しました。

各資料をカビ等から守るため密閉容器に収納し防湿剤、防かび剤を封入しました。また、特に中帰連関係の写真、ネガ、取材ノートをスキャンし、中帰連や管理所職員、戦争被害者へのインタビューカセットをデジタル化し、検索できるようにしました。写真保存の指導をくださったフォトグラファー落合由利子さんならびにサポートくださった関係各位に御礼申し上げます。



民主主義が「汚 、染」する。隠し、言わない、 でまかす首相 答弁。

絵·橋本勝

『NPO 中帰連平和記念館』

〒 350-1175 埼玉県川越市笠幡 1948-6

TEL&FAX : 0 4 9 - 2 3 6 - 4 7 1 1

E-mail: npo-kinenkan@nifty.com
H P: http://npo-chuukiren.jimdo.com/

M L : npo-kinenkan@freeml.com

郵便振込口座名「NPO 中帰連平和記念館」 振込口座 : 00150-6-315918

開館日:「水、土、日」(10:30 ~ 16:30) (ご来館はなるべく事前にご連絡下さい)